

令和5年度 第1回学校運営協議会

日 時 令和5年7月5日(水) 10:00~12:00

場 所 本校会議室

出席者 学校運営協議会委員(5名 A委員:私立大学教授、C委員:本校PTA副会長、D委員:吹田市立就学前施設園長 E委員:障がい者就業・生活支援センター所長、F委員:吹田市立中学校校長)、校長、進路指導主事、事務局(8名)

*B委員:株式会社 部長は欠席

1. 校長挨拶

お忙しい中、学校運営協議会にご参加いただきましてありがとうございます。

この4月に校長に赴任いたしました吉田実と申します。本校開校の頃からしばらく本校に在籍しておりました。コロナも5類に引き下げとなり、新しく学校を作っていくという時期に、校長を拝命いたしました。開校時の思いもいろいろと思い出しながら、また、皆様にご意見いただきながら、学校作りを進めていければと思います。

協議のテーマ等ありますのでご意見いただいて勉強させていただければと思います。どうぞ、1年間よろしく願いいたします。

2. 資料の確認(略)

3. 委員自己紹介(略)

4. 事務局紹介(略)

5. 現状報告

・令和5年度 学校経営計画について

*校長より説明。(説明の詳細は省きます。本校HPに全文が公開されています。)

*「めざす学校像」→「楽しく」「豊かに」「元気よく」開校時以来のスローガン

*「中期的目標」上3つに+1…4項目め「公務の効率化による働き方改革の推進」

*「評価指標」について

*他

- ・令和4年度 進路状況について
 - * 進路指導主事より報告（詳細は略）

- ・働き方改革等取り組みについて
 - * 校長より説明
 - * 今年度のテーマ、協議事項
 - 「教員のやりがい」、「専門性の向上」、「働き方改革の推進について」
 - * 本校の状況について データに基づき説明
 - * 現在の取り組みについて 特に ICT を活用した取り組みについて
 - * 今後の課題について カリキュラム、組織の再整備も含めての改革を検討
 - * 教員の本来の業務遂行、モチベーション、やりがいと働き方改革の両立を

- ・令和5年度 教科書の選定について（略）

6. 中学部の授業見学 中2学習Bグループ 社会理科

- ・「てんびんで重さを計る」…自分でやってみよう！をモットーとした授業
- ・教室へ移動し、見学
- ・詳細は略

7. 休憩

8. 協議 *A 委員を座長に進行

A 委員 校長先生の方から、働き方改革というテーマが提示されました。学校運営協議会で今日を含め3回この件について特に協議を進めていきます。様々な意見を出していただいて、それを校長先生に参考にしていただくという形にしたいと思います。

ところで、先ほど、校長先生から学校経営計画についての説明がありました。これは、昨年度3回目の協議会で承認をさせていただいたものから大きくは変わっていないということです。また、進路先についての報告がありました。吹田支援の進路先の特徴は、自立訓練を経てから、ある意味、社会に出ていく前に力をつけてというようなところだと説明がありました。また、今、授業参観をしましたが、そこで感じられたこともあると思います。そういったあたりも含めご意見を伺い、その

上で、働き方改革についてご意見をいただけたらと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。まずは、E委員いかがでしょうか？

E委員 進路先として、自立訓練が多いというところで、結構、新たに立ち上がってくる事業所も多いかなと思うんですけど、流れ的に、ずっと、この流れ、保護者の皆様とのつながりといった点で希望される方が多いというような感じでしょうか。

進路指導主事 口コミで、後輩の保護者の方に流れているということもあります。あとは、梅田にも出られる、新大阪も江坂にもある、JR茨木にもある、島本にもある、難波にもあるっていうことを考えると、やっぱり行きやすいというところもあるでしょうか。

E委員 自立訓練後の進路先としては、2年後にそのまま「移行」に行かれる方、また、「B型」ということになるのでしょうか？

進路指導主事 そうですね。1番多いのは、やっぱり「移行」にはなるんですけど、その次、「B型」、中には「生活介護」という方もおられます。

E委員 わかりました。あと、経営計画に、PTA主催の研修で年金制度の話とかの実施というのがあるのですが、「就・(ポツ) (すいた就労・生活支援センター)の方でもそういった取り組みがあります。様々な所と連携して「年金セミナー」や「働く準備セミナー」みたいなことを開催しようと思っています。それは「就ポツ」と「相談支援センター」と「ハローワーク」の説明をした後に、第2部として、企業さんから「働くための準備」とか、そういうのを話してもらおうという1時間ぐらいの講義で、9月実施に向けて話を進めています。そういう情報とかがあったら、とりあえずは進路指導主事の先生の方にご連絡してもよろしいですか。

進路指導主事 もちろんです。すでに高3の保護者に案内を配付させて貰っています。

E委員 ありがとうございます。PTAの方も、なかなか情報を得にくい実情があるのかなと思い、何かご協力ができることがあればと思っております。

A 委員 はい、ありがとうございます。ところで、他校では、福祉サービスを併用している子どもたちが増えていると、事業所が 1 つ、2 つ、3 つっていう形でと聞くのですが、そういう子はいますか。

進路指導主事 おそらく A 委員がおっしゃられているのは、「B 型」と「生活介護」ということと思うのですが、そういったニーズというのも一時期、過去にありました。しかし、本人の混乱とか、いろんなことを考えると、やはり事業所は 1 本に絞った方がいいということ、保護者懇談のたびに、お話をさせてもらって、ここ 2、3 年は、それでご納得いただいているような感じに本校はなっております。

A 委員 なるほどわかりました。では、次に D 委員はいかがでしょうか？

D 委員 ネット環境を活用した「相談窓口」ですが、私どもの方では、令和 5 年度に小学校や、保育園、幼稚園とかも連携させていただいて、「こういう時どうしていますか？」みたいな交流とかをしているんですけども、「相談の窓口」の開設というニーズもあるかなと思ひまして、そういうところで吹田支援学校の取り組みを参考にさせてもらえたらと思ひてます。

あと、「不審者対応訓練」の方も、私共もしたんですけども、やっぱり、ぱっと逃げるのがすごく難しいお子さんたちもいますので、そういうマニュアルを整備しているところを共有、参考にさせていただけたらと思ひます。

A 委員 F 委員いかがでしょうか。

F 委員 授業参観では、それぞれの子どもが本当に楽しそうに生き生きとしているというのがすごくいいなって思ひながら、見させていただきました。

ところで、計画の「ハザード」を見させてもらって、避難訓練の時ってどうされているのかなと…。大きい警報音でパニックになってしまう子どももいるでしょうし、そういう辺りはどうされているのかなと思ひました。本校でも支援学級の生徒がいますので、どう配慮をしていくかというところでは、いろいろと共有させていただく機会があればと思ひます。

A 委員 ありがとうございます。では、PTA の立場から C 委員いかがですか？

C 委員 PTA の役員の方で、今年は小学部と中学部と高等部のお母さん同士でやっているんですけど、それぞれ母親として思っていることを出し合いながら、PTA 主催の研修会を「進路」をテーマにということで進められたらと話しあっております。学部を越えて共通して思っているのが、まあ、卒業後でしたら、自立訓練とか施設に行行って帰ってきてからですか、小学部の今だったら、「デイ」に行行って帰ってきてからですか、一旦家に戻ってきてからの余暇の過ごし方とかが実際どうしているのかというところが気になります。また、どこかに行く時に、福祉のサービスで、ヘルパーさんをお願いするとか、では実際をお願いするとしたらどこへお願いしたらいいとか、ケアマネさんがついている方とかついてない方とか、実際どうなのかという辺りも知りたいなど。

先生からのお話も含め「進路」をテーマにセンターさんの方でお話しがあれば教えていただきたいという風に、ご意見を伺って思ったところです。

進路指導主事 実は、コロナの前まではですね、「先輩の保護者に学ぶ」という企画も PTA の進路でありました。卒業されてすぐの保護者の方からとか、卒業して 10 年ぐらいたった保護者の方だとか、5 名ぐらい卒業生の保護者に来ていただいて、休日はどう過ごしているかというお話を伺うという企画でした。そういった企画も、今後 PTA さんの中でご検討していただいてもいいのかなと思いました。卒業生の保護者には、私から声もかけられますので。

C 委員 去年の PTA 研修会で、「進路」「きょうだい」支援の話がすごく良かったので、そういう進路のことや家庭内のことで具体的な話が聞ける研修テーマですと、学部を越えて興味があるし、みなさん知りたいところと思います。テーマが大きいので、続けてやっていく方がいいかなとの意見も話し合いで出ていました。

E 委員 市の障害者相談支援センターだったら個別の相談ということで、子どもが家に帰ってからどう過ごすかという辺りで教えてもらえるたりできるかなと思います。ただ、個別で相談というのもいいかもしれないですけど、みんなで聞いてみんなで話し合っってという研修があってもいいかと思います。保護者同士での情報交換、話し合いができるような場ができたらと思います。

その、私たちは基本ご本人のニーズに沿って支援していきますよっていう風なスタンスなんですけど、じゃあ、お母さんやお父さんへの支援って誰がすんねやろっ

て思っていたりもしていたので、その辺の情報を提供してお母さん方の不安感を和らげるといことで役立てられるんじゃないかと思いました。6つのセンターで所長会議があるので、そこで話題にできればと思います。

進路指導主事 1つ、企画ができあがりましたね！

A 委員 PTA が、まとめ役つなぎ役として、ぜひ進めていただければと思います。

さて、これで各委員から一人ずつご意見ご感想を伺いました。では、ここからはテーマである働き方改革についての協議に入っていきたいと思います。

国や府でも大きな課題として上がっております。教員の業務を少しでも軽減してその分、子どもたちの方に力を注げるような状況をどう作っていくかということになるかと思います。例えば、ペーパーレスであったり、会議の時間を短縮したりとかいうこともあります。講師のなり手がいない、人手不足ということもいろいろなところで切実な問題かと思えます。講師の人がいないとそこが負担になって結局誰かがカバーしていかなければということです。

大学で学生と話をしますと、やっぱり、教員の仕事は大変で、ブラックなのかというところばかりに話がいつてしまいます。本当の意味で、教師のやりがいという話はするんですけども、どうしても教師の残業や帰宅時間というところが話題になりがちです。

そこで、どうですかね、首席・主事の先生の実際に現場はどうですか？ どんなふう感じられていますか。いろいろと改善にも取り組んでいると思いますが。

部主事 府の方から私たちの方には業務改善についてすごく工夫をするようにということで、指導という形で話が下りてきているんですけども、実際、府の方では学校に具体的に何をサポートしてくれているのかという点で、率直なところ、現場の方ではすごく疑問があります。

根底にあるのは、やっぱり教員の人数が不足しているという現状です。今、目いっぱい、各学部回しているのですよね。そもそも不足している状況ですが、コロナは5類にはなりましたが、先生方が体調悪くされたりとか、家族のいろいろな事情があって休まれたりすることがあり、結局そのところは全員でカバーしていくこととなります。しかし、カバーしきれずに、やっぱり生徒の安全を第一に考え

るから、通常の授業ができない状況もあります。根本的には、国も含めてだけれども府の方では教員を増やすということをしてもらわないと回らない状況です。

例えば今の 1.1 倍でも 1.2 倍でも教師が増えるとやっぱり全然違うんですよね。そうすれば、やっぱりそこに余裕が生まれてきます。本来、我々の仕事は、生徒と直接接しながら、その中で教育に関していろんなことを学びながら、教師自身も、勉強して生徒とともに歩いていくものと思っています。これは 40 年教師やってきて、やっぱり最初なので教師になったかっていうと、そこが教員としての魅力であり、ずっとそこにたどり着きたかったから頑張ってきたのだと思います。

しかし、そういうのが今はなくなってしまっているから、若い先生方がある意味なんかすごく可哀そうやなと…やっぱり本来の我々の仕事の楽しさが味わえてないのが現状やから、そういうところが改善できるような人員の配置をしてもらいたいと思います。そうすれば、校長先生はあげている課題、「メンタルヘルスの向上」とか「やりがい」とか充実感、楽しさ、それから「同僚性の向上」、こういった課題も全てやっぱり教員不足に起因しているので、増員は解決に繋がることだと思います。

教員数は、教員定数によって決められていますが、時代の流れで教員の業務が増えているのに、教員定数は全然変わってない。重複申請という制度で生徒の認定が多いと、その分教員の数が増えるんですけども、昔は本当に大変な生徒たちの状況を実際に教員の方で申請したらその分の教員数が下りてきたんですけども、今はもうその重複の認定が大変厳しくなっており、実質、教員は減らされているんですよ。こういった流れで実際の教員数が減っているということを府の方がなかなかやっぱり理解されてない、現場との認識がかけ離れている、全然埋まってないという現状です。

もちろん我々はいろいろと工夫しながらやっていこうことで、努力しているんですが、やっぱり根底の教員数の部分があるのでやはり自ずと限界があります。定時退勤で早く帰っても、逆に仕事を持ち帰って、家でされている先生も増えてきています。根本が変えられなかったら結局、改善も形だけになり、それが新たな不満になっている。現場はもっと余裕があって、休むことがあっても大丈夫というような環境であるべきだし、休みやすい環境であるべきだし、その辺が難しくなっているのが現状です。

A 委員 言われる通り、現実的にはやっぱり人数的な問題であったり、代替講師が見つからなかったりという状況がありますが、どうですかね、その辺り。中学校の方ではどうでしょうか。

F 委員 まあ、人が足りないというのはどこも一緒だと思うんですけど。今年管理職になった教頭先生の例ですが、ある教科の先生が倒れたから 1 人教科なので、その先生倒れたら授業できない。人が足りない、代替講師もいない。たまたま教頭先生が同じ教科で、新採教頭で大変な中、授業も持ってもらった、という話がありました。それでも、たまたまうまく回っている方です。

あと、自分が現場の時もそうだったのですが、一つのことをやり始めると、どうしてもこだわって時間がかかる。こだわりを捨てなさいと現場の教員にいうのも、自分もそうただけに、言いにくいというジレンマがあります。いろんな手立てを教育委員会も言ってはくれています、なかなかそれは現場には浸透しない。

ただ、細かいところでは、例えば、時間外の電話の受付が吹田はなくなりました。クラブをやっているので 6 時以降なのですが、それでもすごく精神的には楽になりました。朝の電話連絡もなくなって随分楽になったという印象です。

また、今年から夏の学校閉庁日が導入の試行が始まるのですが、ま、休みの時に休んでもらうってところからまず始めるのがいいのかなというのがあります。ただ、どうしても平日にできないから、土日に来て仕事をやっている先生が何人かいるので、その辺は課題かなとは思っています。吹田支援の方でも、こういった課題はあると思います。どういう風にしていったらいいのか、なかなか出口が見えないですが。

A 委員 D 委員、どうでしょうか？

D 委員 本当にね、人が足りないっていうのがどの現場でもと思いました。新しい職員が増えてきていて、その職員に研修を保障しようと思ったら、その人へのカバーを作り出していかなあかんという、この辺がすごくきついということがあります。職員の移動もあるので、長い経験年数の職員が減っているっていう辺りでは、新しい職員への個別支援とかが、やっぱり古い職員が、どうしてもたくさん背負ってしまうとことかもあるかなと思います。一定期間在籍して勉強できるようになっていった

ら、もうちょっと楽にはなるのかなと思うんですけど、やっぱり、とても移動が早くなっている気がしています。

また、私どもの方でも、ちょっとずつでも時間軽減っていうことは考えないとダメだになってということで、その、「個別の支援計画」の書き方とかも書きやすいようにしていかないとダメかなということで検討を進めてはいます。ただ、その検討にも時間かかるという感じで…。そこら辺がね、できあがるまでがちょっと大変かなと思っています。

A 委員 ありがとうございます。本当は、教員数も増やして、そのためには、教員の待遇も改善されて、やりがいや魅力もあって給料もいいよってというのが一番なのでしょうけど、ま、今の学生は、大阪府の教員の初任給はいくらですかとストレートに聞いてきたり、また、ある学生には、残業手当はないよ、ただ、調整手当というのがあるとい話をしたりしています。

教員数を増やすためには、教員の仕事を魅力あるものとし、だから教員をめざそうという人たちを増やしてもらわなかったら、多分、駄目だと思います。実際に、今欠員が出ている学校は、補充をすぐしなければいけないところが、何ヶ月も見つからない。小学校の例を聞くと、教頭先生が授業に入っているというのは当たり前という状況です。

まあ、学生で教員をめざしている学生を学習支援員とか、補助的な部分しかできないですけども、せめて、そういうところでの時間数を増やしてもらって、そういった経験から教員の仕事の魅力を学生のうちに感じてもらって、やっぱり教員をやってみたいという学生を増やしていくということが、せめてできればと思います。府では各学校の方で講師を探すという形だけれども、市町村は教育委員会で探すのですが見つからない。要するに、もう委員会でも人を探す部分で手立てのない状況なので、ボランティアとか、そういうことも含めて何か対策を出してもらわなかったらいけないなとすごく思います。

また、どの学校も、何曜日は早く定時に帰りましょうっていうような取り組みをされていて、そこで問題になるのが、帰らなあかん、でも、明日の準備が山積み残っている、なので、持ち帰ってやらなければという部分、そういうところもなんと難しいところですが…。E 委員どうでしょうか？

E 委員 民間の立場から言いますと、業務時間の見直しというところでは、僕たちも1つのタスクに関してみんなどれぐらい時間をかけているのかなという部分を見ています。例えば、授業なら、授業そのものの時間+授業のための準備、事務仕事に当てる時間も含め見ていきます。それで、もし事務仕事の部分が時間外勤務の要因としてあるなら、じゃあ、この事務作業に関しては勤務時間内で、例えば「この作業は30分で終わらせられるのでは」というように分析し、それで「実際この作業でどれだけ時間かかっているのか」という話を本部や事務方の多くの人としたりします。すると、話す相手によっては、「じゃあ、時間内で終わらへんやったら、時間外でもええわ」という考えであるとか、逆に、10分で終わる仕事を1時間かける人とかも、ということが見えてくる。いろいろ話をして分析した上で「これは効率悪すぎでは？この作業は大体これくらいの時間でみんなやっていますよ」みたいな話とかを伝えています。

また、タスクを部署で共有できるように、notionなどのアプリを使って、自分の職場でいえば、職員が6人いるので、その6人がどんな仕事を今しているのかいうところをアプリで管理、見られるようにしています。この仕事をいつまでにやるのかとか、いつまでに終わらせるのかというところをみんなを確認してやっている中で、自分の業務が終わったら、次に別の人の業務を手伝った方がいいみたいなことが見えてきます。業務の中には、分担することができないというタスクも結構あるかなと思うんですけど、ルーティーンワークに関しては互いのヘルプができていくようです。また、効率よく業務ができていいる人からアドバイスを聞いて、「こういう風なやり方やったらいけるよ」みたいなことで時間を減らしていくというのも、1つ方法としてはあるかと思っています。

ところで、人が足りないっていうことは、私は法人の理事をしているので、現場のパートさんとかからよく話を聞いています。そこで「なんで足れへんの」って聞いてみると「忙しくて」って。で、「どこに時間かかっているんですか？『生活介護』があるので、そこの内職作業ですか」とか聞くと、「それはね、かかってないんですよ」とのこと。「では、どこに時間かかっているの」ってさらに聞くと、「個別の対応で時間がかかる」と。さらに、「個別の対応でなんで時間かかっているの」と聞いたら、「その対応方法がちゃんと共有されてない」というところから、「それでみんな戸惑って対応ができてない」という課題が見えてきました。そこで、「それなら、こんな人にはこういう風に対応しましょうっていうことをみんなでちゃんと考えていけたらいいんじゃないか」という対応策を提案しました。

このように。何に時間かかって、なんで人が足りてないのかっていうところの理由を明確にしていくと、逆に、みんな、「あ、人足らへん足らへんっていったけど、ここはこういう風にすれば楽になるし、結果、ちょっと（いい意味で）手も抜けるわ」みたいなふうにも思ってくれて、若干やる気出してもらえたみたいなということはあったかと思えます。

とはいえ、学校の先生たち、話を伺うと、本当に人が足りていないっていう現状はあると思いますし、生徒数とか、うちの事業所とかに比べたら全然多いと思うので、そんな簡単な話ではないと思うんですけども…。

あとは、主事の先生の話聞いて思ったのが、やりがいと専門性の向上というのがあります。これについては、皆で「じゃあこの専門性の向上って何？」というところから話を始めてみるのはいいかと思えます。おそらく専門性は、小学部、中学部、高等部の先生それぞれ変わってくると思います。さっき中学部の授業見て感じた専門性でいうと、「こう楽しくね」、「こうわかりやすく」、「みんながこう興味を引きやすいように」という形で授業を進めていてすごく素敵だなと感じました。けれど、これから社会に出ていく高校3年生の授業での専門性はまた変わってくると思うんですよね。だから、この「専門性」というところをもうちょっと明確にして、こういうところを頑張ってもらいたいんですよっていうところを打ち出せば頑張る方向性がそれぞれ見えて集中して取り組む部分が見えてくるかと思えます。

仕事の「楽しみ、やりがい」というのは、やっぱり上の立場が作り出すんじゃないくて、みんなにどうやってそれを感じてもらおうかっていう風なところもあると思います。ですので、「何があればやりがいが持てるか？」というところをみんなから実際に聞き取っていくっていうのもいいかもしれないと思います。

パートさんから話聞いた時に言われたことなのですが、「今まで上の立場の人たちは私たちの話を聞いてくれへんかった」、「理事をしている人に話を聞いてもらえて嬉しい。私たち大切にされているんやなって初めて感じられた」とのことです。うちの職員数は98人ぐらいなんですけど、その中から順番に徐々に面談をしているのですが、こちらから「1人ずつちゃんと見てるよ」という姿勢で取り組めば、「あ、私、大切にされているみたいなんで、それでちょっと頑張れる」というみたいな気持ちを持ってもらえるかなと感じました。「10分でも15分でもいいから、ちょっと個別で話聞いてもらえる時間をとってもらえたら嬉しい」ということは面談した人全員から言われたので、年に1回ぐらいそうやってしっかりと時間を取ることはいいかなと思いました。

A 委員 やっぱりこう、いろいろと違う立場から意見をもらうというのは、すごく大切ですね。どうですかね、学校では若い先生から相談というのは入ってきますか。

主事 割と相談に、話に来てくれたりとかするのはありますね。やっぱり若い方、最近では精神的にしんどくなられる方がすごく増えていますね。いろんなことが最初からもういろんな要求がポーンと来るので、生徒の対応にしる保護者の対応にしる、その辺が消化しきれてないところが、やっぱりあります。

A 委員 そうやって若い人が来てくれるっていうのは、先生方が相談しやすい雰囲気を出していただいているので、特に、主事の先生方とか、今後、相談の場面っていうのはすごく多くなってくると思うんです。吹田はベテランの先生方が、残っていただいているので、若い方がいろんな相談ができるように、これから次の時代が変わっていくという状況から、考えていくことが大事だと思います。

やっぱりね、教頭先生なんか、どうしても業務が多くなっている。まあ、先生方が、元気でいてもらって…。先生方がより元気という形のものを作っていけたらと思います。

ところで、お母さんの立場でこういう話を聞いたら、逆に、どうですか、教員はお母さんから見て、皆、元気ですか。

C 委員 すごいマスコミ報道とかの、やっぱり悪循環だと思うんですよね。先生はすごくしんどいし、教頭先生がすごい仕事量だっていうのは、実際私たちは知っていますし。細かいことを知らなくても、学校で1番忙しいのは教頭先生だと子どもが言うぐらい…。

息子がいるんですけど、やっぱり先生と一緒に遊びたいけれども、コロナの時とかできなくて。そんな中、先生と一緒に遊ぶ時間っていうのがあって久しぶりに私たちも参観で見に行っただけです。遊べる先生は2人だけだったんですが、先生方も一緒に遊べるっていうことすごく楽しそうで、なんかその、先生のやりがいがあってこういうことなんやなっていうのを母親の目から見ても思いました。

でも、教頭先生と校長先生と遊びたいんだけどやっぱり忙しいよねって子どもが思うぐらい、忙しいのだとも思いますし、すごいマスコミが煽るから、先生をめざ

したいっていう若い人たちとかも昔よりは減っているのかっていうことを考えると根深い問題かなと思うんです。

ところで、別の話になるかもしれませんが、私は地方の出身で、そこにいる姉が子ども園で働いています。うちの息子は杉の子から支援学校に行かせてもらっているんですけど、大阪での支援の内容とか、先生方の感じとかを姉に話をすると、大阪の支援の先生はすごいわ！っていう、すごいやり方で、やっぱりその環境もすごいし、勉強の仕方とかもすごい、全然違う！というふうに思っています。地方によって形が、支援の方法とか学校とかが違うみたいですが、そんな、地方の方がすごいと思っている、大阪の教育を私たちは受けているということで誇りに思いますし、先生方をすごい尊敬しています。そんなふうに一所懸命してくれているのだから、やっぱり、ここまでの話を聞いていますと…なんか、ちょっとでもお給料あげて欲しいと思っていますね。

先生方が学校で生徒にやっていたいことは、先生方が勉強されてやっていたいことだと思いますし、そのモチベーションを少しでも上げていただけるように、PTAの方でも先生方へ1人一台のタブレットを配付の要望を府に出させていたんだんです。授業の準備やペーパーレスで少しでも先生の仕事量が減ったりするのであればと思いました。

私たちも用事で学校に電話することもあるのですが、ちょっとこのタイミングだと、先生方ちょっと疲れているかと考えてしまうこともあり、例えば、連絡帳もタブレットとかパソコンとかですていただけると、食事準備の合間に、あ、先生にちょっと連絡のこととか書いておこうとか、そういう親としても便利と思えるところもあるので。また、休みの子は特に情報が一日遅れになるとかということもありますし。

先生方に連絡帳を書く時間があまりないというのも私たちはわかっているんですけども、一方で、子どもの様子について十分に伝えて欲しいという保護者の思いもあって…。タブレットで連絡できるようにすることがいいか悪いかっていうのは別なんですけど、あの、迅速に、見られるし、反応が返せるし、今の時代は、そういったことがあってもいいのかなと思いきや要望を出させていただきました。

私たちも、何かできること協力できることがあればと思っています。

A 委員 ありがとうございます。子ども1人1台のタブレットという時代で、教育の方もいろいろと変わっていくこと、そして、それを率先して進めていく先生がいるということも大事だと思います。

あと、大阪の先生方よく頑張っておられるということで、僕も教頭やっていた時は、もう、入学進学を控えた保護者から電話がかかってきて、大阪の教育ってというのはすごいのので転居したいと思っているというのは、いつも何件も入ってくるんですね。先生方本当によく頑張って、支援教育をしっかりと、レベルをもっともっとあげながら、子どもたちにやっていただいている現れだと思います。

ただ、学校計画に書いてある、教員の授業の持ち時間を減らすことと同時に、授業の質を落とさずにとということが、どうすれば両立できるのかということは思うんですね。難しいですが、それでも、なんとかできる範囲で考え、先生方の業務が少しでも減らすという部分で何かできればと思います。

今後の協議会でも、この話ではかなり盛り上がってくると思いますので、それぞれ改めてご意見をいただければと思います。では、時間になりましたのでこれで第1回目の協議を終わります。

9. 本日のまとめ

教頭 本日はいろいろとご意見をありがとうございました。
 次回以降の協議もよろしく願いいたします。

10. 事務局より ・次回は12月6日（水）

11. 閉会

以上